スポーツ庁再委託事業

# 令和５年度 障害者スポーツ推進プロジェクト

# （障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業）

事業報告書

令和６年３月１０日

一般社団法人日本ボッチャ協会

令和５年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
（障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業）

事業報告書

目次

１．事業の実施期間

２．事業趣旨

３．事業の実施体制
（１）本事業の実施体制
（２）本事業の実施スキーム

４．事業の内容
（１）事業のテーマ
（２）実行委員会
（３）事業の実施内容

５．事業の成果
（１）評価指標および目標
（２）結果と考察

６．今後の事業展開予定
（１）事業継続や横展開に向けたポイント、課題
（２）次年度以降の事業継続、横展開の計画

参考資料等

１．事業の実施期間

令和５年４月２７日～令和５年１２月１１日まで

２．事業趣旨

本事業は、特別支援学校に通う生徒が、日頃の成果を発揮する場に参加することで、パラリンピックを身近に感じ、意欲的に日々の体育学習に取り組むことを目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ姿勢を育むことを大きなねらいとして実施している。各都道府県１校以上の参加がある全国大会への発展を目指し、今年度は以下をねらいとして取り組みを行った。

（１）パラリンピック正式競技であるボッチャの特別支援学校への定着を図る。

（２）予選会については、オンライン開催にすることにより、学校内での教育活動の一環として取り組めるようにし、大会が日々の学習の成果を発揮する場となることを目指す。

（３）特別支援学校および特別支援学級等に通学する児童・生徒が、ボッチャを通じて、意欲的に日々の体育学習に取り組めることを目指す。

（４）大会参加においてマナーの習得および、ボッチャを通じた選手同士の交流を図り、生涯スポーツへの意識を高める機会とする。

（５）将来ボッチャ選手として活躍を目指す人材の発掘の機会とする。

（６）大会を通して指導者の指導力向上の場とする。

（７）協賛企業や開催自治体、開催地の体育協会と連携を図ることにより、競技を実施する環境を整備するとともに、競技を支える人の育成を図る。

（８）就学時からボッチャを行うことで、障がい者の継続的なスポーツ参加率の増加を目指す。

３．事業の実施体制

（１）本事業の実施体制

①　大会実行委員会

本事業は、大会実行委員会を組織し運営している。大会実行委員には、大会運営に関わる外部組織や、全国特別支援学校長会、前年度優勝校からも委員として加わって頂くことで、多種な人材で実行委員会を組織し運営を行っている。

②　大会周知

参加校の募集は各都道府県教育機関に案内を出すことで周知を図った。また、全国特別支援学校長会と連携をし、募集の周知を行った。

観戦促進については、墨田区及び墨田区教育委員会、墨田区体育協会と連携し、小中学校、特別支援学校、区民への周知を行った。

②　医事管理

決勝大会では、開催中看護師が常駐し、墨田区総合体育館と連携し、救護室を設置するなど、救護体制を整えた上で開催をした。

③　安全管理

多数の車椅子利用の障がい選手を含む関係者が参加するため、安全管理上、駐車場に等に警備員や誘導員を配置した。また、最寄り駅の錦糸町駅に事前連絡をすることにより、選手の乗降等に対応いただき、安全に選手を迎えることができた。

④　予選会実施体制

予選会は動画提出（オンライン）で開催した。動画をオンラインで提出してもらうため、セキュリティ管理上、運営については業者と連携して実施した。

⑤　ボランティア

公益社団法人日本理学療法士協会の協力を得て、理学療法士を各チームに配置し、移乗等のお手伝いを含めたアテンダントを行った。また、大学や墨田区、墨田区スポーツ協会と連携し、多くの大会ボランティアの協力を得て実施した。

⑥　選手輸送

都内の公共交通機関の朝の混雑状況を鑑み、安全面の確保を最優先として旅行会社と連携し、リフトバス等の配備の充実をはかり、輸送を希望した学校ごとに東京駅等指定場所より会場までの送迎を行った。

⑦　その他

大会協賛企業も実行委員会へ実行委員として加わることで、初参加チームが継続した参加につながるような企画を立ち上げ、決勝大会で実施することができた。

（２）本事業の実施スキーム

別添参照

４．事業の内容

（１）事業のテーマ

特別支援学校に通う生徒が日頃の成果を発揮する場に参加することで、パラリンピックを身近に感じ、意欲的に日々の体育学習に取り組むことを目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ姿勢を育む

（２）実行委員会

【大会実行委員長】

齋藤保将

（一般社団法人日本ボッチャ協会業務執行理事、さいたま市特別支援学校教諭）

【実行委員会事務局】

片岡正教（一般社団法人日本ボッチャ協会業務執行理事、大阪公立大学 准教授）

三浦裕子（一般社団法人日本ボッチャ協会事務局長）

新井大基（一般社団法人日本ボッチャ協会普及振興部長）

刀谷　誠（一般社団法人日本ボッチャ協会 普及担当）

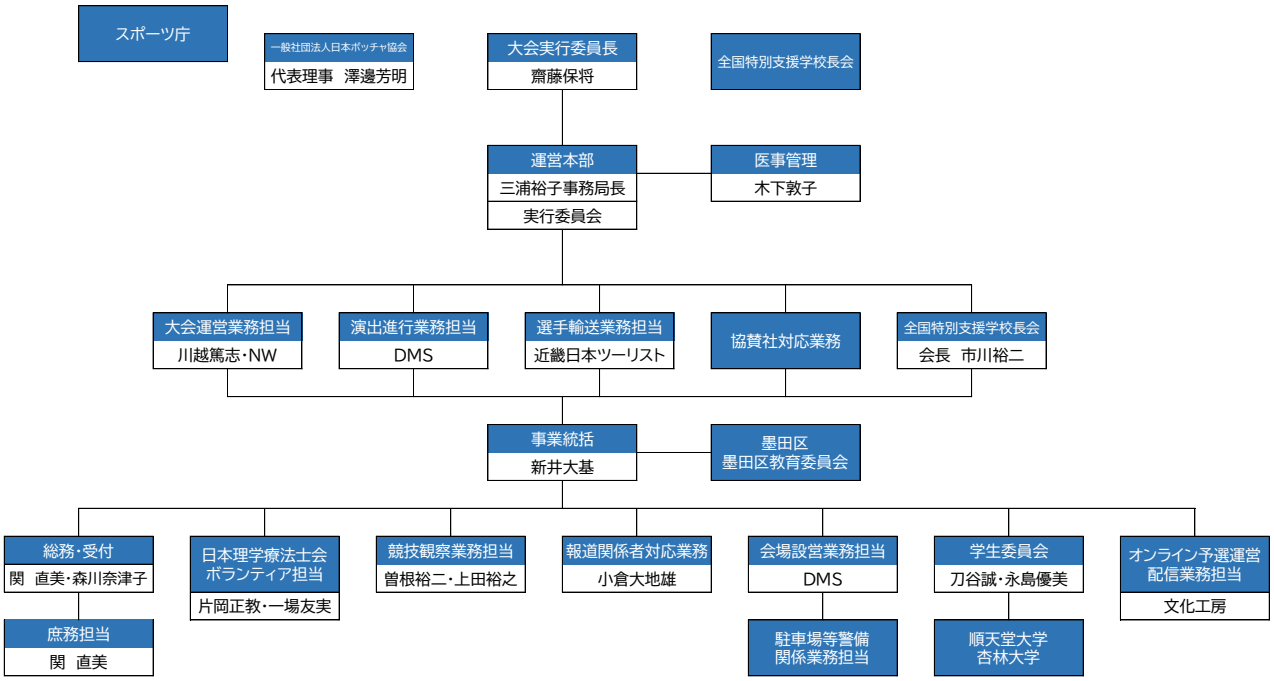
矢作公佑（一般社団法人日本ボッチャ協会 育成普及担当）

関　直美（一般社団法人日本ボッチャ協会事務局総務）

川越篤志（合同会社ニューウェイヴ）

【実行委員】
澤邊芳明
（一般社団法人日本ボッチャ協会代表理事、㈱ワントゥーテン代表取締役社長）
市川裕二（全国特別支援学校長会　会長）
村上光輝（一般社団法人日本ボッチャ協会強化本部長）
一場友実（杏林大学 准教授）
渡　正　（順天堂大学 准教授）
曽根裕二（一般社団法人日本ボッチャ協会強化副本部長、大阪体育大学 准教授）
上田裕之
（一般社団法人日本ボッチャ協会育成部長、東京都立大泉特別支援学校 教諭）
鈴木清貴（石川県立いしかわ特別支援学校（前年度優勝校）　教諭）
日本ボッチャ協会学生委員会
【大会アドバイザー】　全国特別支援学校校長会
【輸送に関わる運営・手配】近畿日本ツーリスト株式会社
【オンライン予選会運営・ホームページ運営・配信業務関係】株式会社文化工房
【決勝大会式典等演出に関わる運営・警備関係】株式会社 ディーエムエス
【大会運営にかかる調整・決勝大会競技進行関係】合同会社ニューウェイヴ
【チーム付きボランティア（後援団体）】公益社団法人日本理学療法士協会
【協会協定大学：順天堂大学（千葉県）・杏林大（東京都）】
【開催自治体連携】墨田区（地域協力支援部スポーツ振興課）

## 第8回全国ボッチャ選抜甲子園　組織図



（３）事業の実施内容

①　大会名：第８回全国ボッチャ選抜甲子園

②　種　目：ボッチャ

③　参加校数：４３校（１チーム選手３名～４名）

④　試合方式：

【予 選】リモート（動画提出）開催。

各学校において、課題に取り組む。

提出された動画を審査し、上位１５校が決勝大会へ進む。

【決 勝】墨田区総合体育館において対面で開催。

試合は、トーナメント方式実施。

予選会を勝ち抜いた１５校＋シード校１校合計１６校で対戦。

⑤　開催期日：

【予 選】２０２３年６月９日(金)～６月１８日(日)

【決 勝】２０２３年８月１０日(木)　開会式 10:00～ 試合開始 10:20～ 閉会式 16:00～

⑥　会 場：

【予 選】各学校の体育館等

【決 勝】墨田区総合体育館（東京都墨田区錦糸４丁目 15-1 ）

⑦　観 戦:

有観客で開催。多様な観戦機会を提供するために、試合の模様は YouTube で配信。

開催地（墨田区、墨田区教育委員会、墨田区体育協会）と連携し、一般の方や区内の小中学校や特別支援学校へ周知をし、観戦促進を図った。

⑧　周 知：

都道府県教育委員会へ要項等を送付し、管轄の特別支援学校への配布を依頼。

全国特別支援学校長会と連携をし、全国の特別支援学校へ直接周知を行い、参加促進を図った。観戦促進については、墨田区、墨田区教育委員会と連携し、地域のスポーツ団体や区内の小中学校及び特別支援学校へも周知を行った。

⑨　連 携：

（ア）全国特別支援学校長会と連携し、大会周知とボッチャ競技の学校教育への定着を図った。

（イ）公益社団法人日本理学療法士協会との連携により、チーム付きのボランティアとして、各チームに理学療法士を配置した。

（ウ）観戦者や施設来場者の競技に関する関心を高め、競技の普及振興を促進するために墨田区、墨田区教育委員会、墨田区体育協会と連携し、会場にボッチャの競技体験スペースを設置した。

（エ）墨田区、墨田区教育委員会と連携し、大会終了後も継続的にボッチャ競技への普及促進を図り、今後も開催地とともに大会を盛り上げていき、重度障がい者に対する理解促進を図るために、小中学校及び特別支援学校を訪問し、体験授業を開

催した。

５．事業の成果

（１）評価指標および目標

① 本事業で実施する大会への初参加校数

年々出場する学校が定着してきているため、第７回大会４２チームエントリーの内、初参加２校を超える、初参加校のエントリーを目標値とする。目標は５校。

第８回大会は、全国特別支援学校長会からの周知の成果もあり、６校が初出場となり、目標を達成した。また、初参加校の内、山梨県、京都府、高知県から初めてエントリーがあり、連携の成果と全国的な広がりを感じる大会となった。

② 本事業で実施する大会の観戦者数および、ライブ配信視聴者数

会場となる墨田区総合体育館の観客席数は１，５００席（固定）のため、５００名を目標値とし、ライブ配信視聴者数については、第７回大会はライブ配信視聴数：同時視聴 最多視聴時 ３００名、アーカイブ視聴５，６２３回 であったため、昨年大会を超える視聴者数を目標とした。第８回大会の観客数（来場者数）は６９８名、体験会参加者数は９７名、ライブ配信視聴者数は最多視聴時４００名となり、前回を越える成果を達成することができた。一方で、リアルタイム視聴が増加したことによりアーカイブ視聴は４，６６１回にとどまった

| 評価指標 | 目標値 | 結果 | 目標達成率 |
|---|---|---|---|
| 初参加校数 | 5 | 6 | 120% |
| 来場者数 | 500 | 698 | 140% |
| ライブ配信視聴者数 | 300 | 400 | 133% |
| アーカイブ視聴 | 5,623 | 4,661 | 83% |

③ 学校教育へのボッチャの定着

予選会については、オンライン開催にすることにより、学校内での教育活動の一環として取り組めるようにし、大会が日々の学習の成果を発揮する場となることを目指して開催をした。

今大会では、予選会実施後に参加校へアンケートを実施し、以下の通り回答を得た。（アンケート結果については、別添参照）

参加校：42 校+シード校 1 校、計 43 校

・ アンケート回答数：29

・ アンケート回答校数：21（3 校は選手も含めた複数回答）

④ 本事業を実施することで、障がい者のスポーツ参加率増加

アンケート結果にもあるように、地域のクラブに参加して、日常的に競技活動を行う生徒や日本選手権の予選会、オープンチャンピオンシップへ出場する生徒も増えている。また、生徒自ら卒業後も競技を続けていくためにはどうすればよいか、卒後の活動を考えて行動する生徒も増えてきている。

また、ボッチャ甲子園出場をきっかけに日本選手権に出場し、大会で成績を上げ強化指定選手に選出され、日本代表として活躍している生徒もいて、ボッチャ甲子園が、重度障がい者のスポーツ参加率を上げるきっかけとなっている。

（２）結果と考察

①　全国特別支援学校長会との連携

本事業においては、全国特別支援学校長会との連携し開催をしている。前回大会においては、大会開催に対するアドバイザーとして、今後継続的に開催するための助言を頂きながら開催を行った。今回大会からは、大会開催にかかる周知から参加に対する具体的な呼びかけまでを連携して行うことより、競技の普及や障害のある生徒の社会参加の促進となど、より連携を深化して実施した。結果、今まで出場校を輩出していなかった３県から３校が初出場を果たした。

②　墨田区、墨田区教育委員会との連携

区内すべての小中学校及び特別支援学校への周知や観戦促進について、墨田区と墨田区教育委員会と連携したことにより、競技の普及振興や障がい者理解の促進等を目的に、小中学校や特別支援学校において、体験授業を実施した。そのことがきっかけで、学校授業の一環として観戦に訪れた学校があった。また、墨田区と連携し、広く周知をおこなったことにより、昨年大会より多い７００名近い方に来場いただくことができ、より多くの方にボッチャの魅力や特別支援学校の生徒の全国大会の魅力を伝えることができた。

③　墨田区スポーツ協会との連携

墨田区スポーツ協会と連携し、今後も継続して本大会ボランティアとして参加いただけるように、サポーター講習を開催することにより、大会を支える人の育成を行った。事前研修を行ったことで、大会当日スムーズな運営を行うことができ、また、参加したボランティアも継続意欲の向上につながった。

④　大会協賛企業との連携

初めてエントリーした学校が、今回限りにならないように、大会協賛企業と連携をして、選手への指導助言とともに、指導する先生方への助言も含めた学校訪問プログラムを実施した。訪問した学校の内、京都府内の特別支援学校については、その取り組みが新聞等で取り上げられるなどしたこともあり、学校全体の雰囲気も変わるきっかけとなった。生徒たちは大会出場をきっかけに具体的な目標をもつことができたことで、活動に積極的に取り組めるようになったり、学校側の意識にも変化があったりと、継続した競技実施の環境整備を行うことができた。

このような取り組みにより、全国に広がりを見せ、学校内での実施環境の整備も進んできている。また、予選会の開催形式（課題に挑戦する）が教育活動の一環として体育の授業の中で取り入れるなど、ボッチャが教育活動としても定着してきている。

６．今後の事業展開予定

（１）事業継続や横展開に向けたポイント、課題

①　参加校の拡充にむけた横展開

継続的に参加する学校がある一方で、参加実績がない県がある。全国大会として参加校の拡充を図るために、全国特別支援学校長会との連携を深化させていくことが必須となる。今年度については、全国の特別支援学校へ周知と参加の呼びかけについて連携することで、参加実績のない県からの参加があり、７校の初参加校があった。今後も継続的な連携を図り、次年度からは全国特別支援学校長会共催での開催を目指す。

今後は、参加実績がない県へのアプローチについては、地域協会との連携がポイントとなってくる。地域ボッチャ協会がない県についての大会参加に向けたアプローチについては、実施環境の整備も含めてどのように行っていくかが大きな課題となる。

②　学校内での継続的な競技実施のための環境整備にむけた横展開

初出場校については、大会協賛企業と連携し、学校訪問プログラムを実施することで、継続した大会へのエントリーや学校内での継続的な実施環境の整備を行った。

今後は、指導者の不足や特別支援学校特有の事情により、学校内で継続的に競技を実施する環境が整っていない学校も多くあるため、教育活動へのボッチャの定着と指導できる教員の育成、学校内での継続的な競技実施などの環境整備の課題解決のため、地域ボッチャ協会と連携し、継続的な競技実施のための仕組みを構築していく。

③　運営にかかる経費確保にむけた横展開

参加する生徒の競技力が向上し、重い障がいのクラスに該当する選手の出場も増加してきている。決勝大会においては、各校の負担を減らすため、都内の輸送を行っているが、燃料費高騰などにより年々経費が増大してきており、資金確保が課題となっている。本年度においても、民間助成金や、企業からの大会協賛金を受けて開催をしており、大会協賛企業とは学校訪問プログラムを展開するなど、連携した事業も展開しているが、予算的には全体予算の２０％ほどに過ぎないため、継続した運営のために、さらなる資金確保が必要である

（２）次年度以降の事業継続、横展開の計画

①　参加校の拡充にむけた横展開

事業を継続していく上で、参加実績がない県から参加校を輩出し、将来的に各都道府県から１校ずつ参加校がエントリーすることを目指す。

(ア)引き続き全国特別支援学校長会と密に連携を図り事業を実施する。

(イ)次年度からはより連携を深化し、全国特別支援学校長会共催で開催

（ウ）地域ボッチャ協会と連携し、地域ボッチャ協会が県内の特別支援学校を訪問して指導助言ができる仕組みを構築することにより、参加校の拡充を図る。

（エ）地域ボッチャ協会がない県については、大会協賛企業と連携し、参加校決定前に学校訪問プログラムとして訪問し、生徒には指導助言、先生にも助言を行うことで競技実施環境を整え、大会参加への意欲向上を図り、大会参加へ繋げる。

②　学校内での継続的な競技実施のための環境整備にむけた横展開

（ア）指導者の不足や特別支援学校特有の事情により、学校内で継続的に競技を実施する環境が整っていない学校も多くあるため、教育活動へのボッチャの定着と指導できる教員の育成、学校内での継続的な競技実施などの環境整備の課題解決のため、地域ボッチャ協会と連携し、継続的な競技実施のための仕組みを構築し、環境整備を行っていく。

（イ）2014 年に文部科学省が実施した「特別支援学校体育連盟組織の設置状況に関する調査」によると、都道府県別の特体連組織は、１９都県で設置されており、東京都の３つの特体連組織を加えると、全国に２１の特体連組織がある。東京都については、唯一東京都肢体不自由特別支援学校体育連盟が設置されている。これらの特別支援学校体育連盟とも連携して、競技実施環境の整備を進めていく。

（ウ）地域ボッチャ協会が設立されていない県については、大会協賛企業と連携による学校訪問プログラムを実施することで、大会エントリーへ繋げていき、学校内での実施環境の整備を図る。

③　事業継続のための開催地自治体との連携による横展開

（ア）本大会は、多くの特別支援学校の生徒たちにとって、高校野球の甲子園や高校総体と同じような意味合いを持つ大会へと成長してきている。開催地にボッチャが根付き、「ボッチャ甲子園の町」となっていくよう自治体と連携し、周知だけではなく、学校訪問や一般の方に向けた体験会、大会ボランティアの育成等の事業を継続して行っていくことにより、大会そのものを支え盛り上げていく土壌を作る。

（イ）決勝大会に進出した学校や、観戦に来場した重度障がい者に対して、競技参加をきっかけに世界が広がり、ＱＯＬの向上につながるように、自治体の観光事業等とタイアップした事業も展開していく。

④　事業継続に向けた資金確保の計画

今年度も、民間企業による大会協賛のほかに、民間助成金の申請を行い、資金確保に努めている。しかし、本事業の予算の２０％ほどしか獲得できていないため、事業を安定的に継続的して開催していくためにも、次年度以降は以下の点について実施し、資金確保に努めていく

（ア）協賛企業と連携した事業を展開することで、資金の確保（増額）と参加校の拡大を目指す

（イ）サブスポンサーの獲得

（ウ）民間助成金への申請（継続）

参考資料等

予選会後参加校アンケート

大会実施報告書